

アートコミュニケーション
人材育成プログラム



the cube of a

この世界は変化を続ける。クリエイションの一端を担うアートやテクノロジーに関わる人達から、現在形のフィードバックを得る機会をつくりたいと我々「あ³」は動き出しました。

奈良女子大学と入江泰吉記念奈良市写真美術館が連携し推進するアートコミュニケーション人材育成プログラムとして動き出した「あ³」。大学と美術館がそれぞれの強みを活かし、人と作品と街をつなぐ新たなアートの担い手を育成することを目的としています。写真文化発祥の地のひとつとされている奈良で、日本を代表する写真家のひとりである「入江泰吉」の写真を活用しながら先端の技術を学び、アートの実践的な力を育てるプログラムを展開します。

プログラム参加者は、講座・ワークショップ、芸術家滞在型の制作支援、プロジェクト(アートリベア・アートエデュケーション・アートプロモーション)を通して、アート表現、色彩、キュレーション、文化資源の保存・活用に関する知識を身につけ、将来求められる総合的なアートマネジメントスキルを修得します。プログラムの成果として、リアルな美術館とバーチャルの美術館で展覧会を開催します。



ギャラリーツアー

2024年12月7日(土) 14:00~

申込不要

無料

世界で注目を集めているジョアンナ・ピオトロフスカ氏と期待の若手作家、桑迫伽奈氏、齊藤思帆氏が案内するギャラリーツアー。作品の背後にあるストーリーや想いを直接聞ける貴重な機会です。この機会に、アートの新たな魅力を発見しに来ませんか？

複製される感性

「あ³」プログラムの一環として、奈良の地に魅了され滞在制作を行った作家による成果展。地元の歴史や自然、文化に深く触れたことからインスピレーションを得た新作を含む展覧会を開催いたします。古都奈良の豊かな伝統と現代アートが融合した作品を、この機会にぜひご覧ください。

Joanna Piotrowska ジョアンナ・ピオトロフスカ

世界が注目するアーティスト、ジョアンナ・ピオトロフスカ氏が奈良で滞在制作した新作を含む写真作品や映像作品を一堂にご鑑賞いただけます。



Untitled

ポーランド生まれ、ロンドンを拠点に活動。

室内での簡易的な隠れ家をモチーフとした代表作「Shelters」シリーズでは、子どもたちが大人役を演じるゲームをベースにし、逆に、大人が子どものゲームを行っています。隠れ家やシェルターを作る行為には、幼少期のゲーム特有の無邪気さと遊び心がありますが、ひとたび、その文脈から離れ大人が行くと、危険なほど不安定で、壊れやすそうな特性が見えてきます。それらは場所を超えた人間の生来の脆弱性を明らかにしています。(「Alex Greenbergerによるインタビューより」)

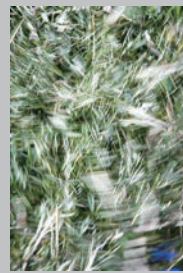
[主な活動]

Le Bal (パリ、2023年)、FRAC Île-de-France (パリ、2023年)、第59回ベネチアビエンナーレ(2022年)、第16回リヨンビエンナーレ(2022年)、Kestner Gesellschaft (ハノーバー、2022年)、MACRO (ローマ、2020年)、Zacheta National Gallery (ワルシャワ、2020年)、Tate Britain (ロンドン、2019年)、Kunsthalles Basel (バーゼル、2019年)、NS-Dokumentationszentrum München (ミュンヘン、2019年)、MoMA (ニューヨーク、2018年)、Kunsthalle Wien (ウィーン、2018年)、第10回ベルリンビエンナーレ(2018年)など。日本ではHAGIWARA PROJECTSでの個展「岩」(2023)や恵比寿映像祭(2024)などがある。

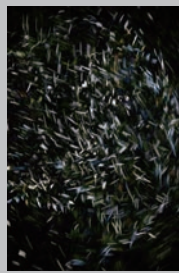


Animal Enrichment

桑迫 伽奈 Kana Kuwasako



不自然な自然



北海道札幌市生まれ、札幌市在住。北海道教育大学岩見沢校美術コース卒業。

[主な活動]

ヤング・ポートフォリオ入選(2019年)、HOKKAIDO PHOTO FESTA2019 ポートフォリオレビューグランプリ(2019年)、写真集「不自然な自然」(Case Publishing/2021年)、PITCH GRANT ファイナリスト(2022年)、Fraction Magazine Japan 掲載(2022年)、マレーシアにてアーティストインレジデンス(JFKL/2024年)。札幌・名古屋・東京での個展多数開催のほか、屋久島国際写真祭(2022年屋久島)、「#みまのめVOL.6」(2020年 三岸好太郎美術館/札幌)など。

齊藤 思帆 Shiho Saito



Pic of Pain -reply (J&J)

1988年東京都出身。武蔵野美術大学版画専攻、同大学院修了。

[主な活動]

「Pic of Pain」(18, Murata、東京、2024年)、「TEMPORAL POSSESSIONS II」(東葛西1-11-6, A倉庫、東京、2023年)、「かなた」(一乗法華寺、東京、2022年)、「at last」(JIKKA、東京、2014年)など。グループ展に「Maps」(Cit  Internationale des Arts、パリ、フランス、2022年)、「感性の遊び場」(ANB Tokyo、東京、2022年)、「一方そのころ/meanwhile」(谷本真理との二人展、KAYOKOYUKI、東京、2019年)、「End of Summer Open Studio」(Yale Union、アメリカ、ポートランド2019年)など。武蔵野美術大学パリ賞受賞(2020年度)、2022年より1年間パリ滞在。アユニットThe Goodwillerとして田岡美紗子と古着や古物を用いたプロジェクトも進行中。

同時開催
※要観覧料

1960年代の奈良 入江泰吉

